

自動運転のために必要な通信環境に関する官民連絡会
第4回連絡会 議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：2026年2月6日（金）14:00～15:55
2. 場 所：オンライン会議（Microsoft Teams）

(議事次第)

1. 開会
2. 議事
 - (1) 国内・海外（米中欧）における自動運転導入事例と通信活用状況
 - (2) 令和7年度実証事業の状況及びヒアリング等を通じた課題整理
3. 閉会

○国内・海外（米中欧）における自動運転導入事例と通信活用状況

事務局より、資料 4-1 に基づき、国内・海外（米中欧）における自動運転導入事例と通信活用状況について説明した。出席者からの主な意見等は以下のとおり。

- 総務省、自動運転時代の“次世代の ITS 通信”研究会（第一期）において検討された V2X 通信と V2N 通信の連携・役割分担イメージについて、ブレーキ等の対象事象の到着時間のレンジに、通信を使い分けるときのしきい値を設けるような動きはあるか。
 - 各ユースケースに応じた通信要件の中で一定の遅延を許容する幅が定められていくと考えており、V2I、V2N、V2X の使い分けに関して、一定のしきい値を設けることは難しいのではないか。
- 事業者としては誰がコストを負担するかが気になっており、V2I 通信における様々な路側機等の法的な位置づけや位置づけに応じた所管省庁の整理は進んでいるか。
 - コスト負担の考え方は、各地域における関係性において定まり、多様であるべきではないか。また、自動運転に係る関係省庁の所管は本調査の対象外であるため詳細な情報を得られていないが、実証実験や社会実装の取組が進む中であるべき姿が定まっていくのではないか。

○令和7年度実証事業の状況及びヒアリング等を通じた課題整理

事務局及び各実証地域担当のコンソーシアムより、資料 4-2 に基づき、令和7年度実証事業の状況について説明があった。また、事務局より、自動運転関係者へのヒアリング等を通じた通信システムの信頼性確保等に係る通信の技術的課題（案）について説明があった。出席者からの意見等は以下のとおり。

- 複数の地域で個別に実施したユースケースを組み合わせる機会があればより良いと感じた。
- 精華町事業において算出した費用低減効果について、算出の前提としてバス購入のハードウェア費用も含まれており、全体費用の中でも大きな割合を占める。その高額な

コストが大きな課題と考えられるのではないか。

- 通信する情報のデータ量といった要求される通信品質によっては、高度な通信環境の整備が必要になる場合がある。しかし、採算面を考えると当該通信環境が自動運転以外の他事業にも活用できることが必要と考えられ、検討課題になるのではないか。
- 経済性の観点から走行ルート全てに新しく通信環境を整備することが難しい場合、NTNを含めた様々な通信回線を束ねて活用することで途切れない通信環境を目指すのが良いのではないか。
- 凍結した道路や雪道での自動運転は、地域ごとの雪質を踏まえた異なる運転の方法を自動運転制御に反映することが重要ではないか。
- 自動運転システムの機器は自動運転車両内部で多くのスペースを占める。また、システムに関連して車両価格は上昇している。このような中で、クラウド化を進めるにあたっては大容量通信が必要な場合があり、コストと利便性のバランスを考慮する必要が生じるのではないか。
- 自動運転バスは、既存のインフラ環境だけでなく手動運転で運行される既存路線バスとの連携も重要と考えられるのではないか。乗客の関心である時刻表通りの運行を目指した制御を見据え、日常的に運行している車両のデータ活用や、既存のインフラ及び車両との連携が検討課題になるのではないか。

(以 上)